

I 「あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい」：13。私たちの人生には苦しみや悩みがあります。もし私たちが、真の神を信じていないなら、祈る事はできません。しかし私たちは何と幸いな事でしょう！苦しみの時、真の神に祈る事ができます。※私は、神の先行的恵みにより、主を信じ救われ、日々、生ける神に、どんな事でも正直に祈る事が出来るのは、何という恵み幸いな事かと感謝しています。しかも、その祈る対象である生ける神は、私たちの事を心から愛しておられ、私たちの苦しみの事情を、そして私たち自身の事を、私たち以上に完璧に御存知です。また、私たちの苦しみの出来事も、すべて神の御支配、御許しの中にあります。「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています」(マタ10：29, 30)。神は、すべての事(人の目にマイナスに見える事も)を働かせて、①神のご計画の前進と②私たちが主の御姿に成長する為に益として下さいます。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となる」ローマ8：28。ある人の大切な祈り「神よ、変える事の出来るものについて、それを変えるだけの勇気を与えて下さい。変える事の出来ないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えて下さい。そして、変える事の出来るものと、変える事の出来ないものとを識別する知恵(ヤコブ1：5)を与えて下さい」。私たちも、そのように祈りましょう。

II 「喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい」：13。祈りだけではなく、神への感謝、賛美も！

1. 神が下さる喜びとは、幸せな気分とは違います。私たちは色々な事で幸せな気持ちになれないことがあります。感情や気分は、天候でも体調でも変わります。しかし、主にある喜びはなくなるのです。というのは、神が下さる喜びは、神が私たちが救い愛しておられることを知っている事から来る喜びですから。何か良い事があった時だけの喜びではない。私たちの身に起こる出来事、状況により左右されない真の喜びの土台＝神に救われ愛されている喜び、苦しい時も神が共におられる喜び、神に数えきれない罪を赦していただいている喜び、神が苦しみを益に変えて下さる喜び、人の力では造れない尊い命が神によって与えられ、今日まで生かしていただいている恵み、主を信じて救われている私達は、この地上では病を経験し、いつか死を迎えますが(「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある」伝3：1, 2)、それで終わりではなく、天国で永遠に生かされ素晴らしい神と交わる事ができるいのち(永遠の命)を与えられている喜び。日毎の糧が与えられている喜び。落ち込む時も、主の恵みを数え感謝しましょう。不平のボタンではなく、感謝の心のボタンを押しましょう。その時、主からの喜びが心に与えられます。※証し。切り替え。

2. 私たちの神への応答→「その人は賛美しなさい」。神が最も喜ばれるのは、神の驚くべき恵みに感謝して、神ご自身を喜び礼拝し、神を心から賛美する事です。「感謝の心を持つ人になりなさい。キリストのことばをあなたがたのうちに豊かに住ませ（思いを潜め、反芻し、分かち合い）、知恵を尽くして互いに教え（教えられた御言葉を分かち合い）、互いに戒め（互いに愛を持って真実に語り合い）、詩と賛美と霊の歌とにより、（主の恵みを数え）感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」（コロサイ3：16）。※証し：「神の恵みによって、私は今の私になりました」（Iコリント15：10）。私は、自分の罪の故に滅んで当然の者ですが、神の恵みで救われ、神に愛され、奉仕をさせていただいている恵みに驚いています。神が与えられた教会と家族を感謝します。一つ一つを神に感謝し賛美します！

Ⅲ「あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい」：14。病気はすべての人にとり、つらいものです。しかし、病気の時、自分の弱さを認めさせられ、病の中にある人々を思いやり祈り、神に祈り頼む機会でもあります。人は、本来、神に頼むことなしには生きていけないことを教えられます。「教会の長老たち（教会の指導者たち）を招き…祈ってもらいなさい」。キリスト者にとって神に仕える人たちに祈ってもらえることは、大きな支え、慰め、励ましです。「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい」：14。この御言葉にはいくつかの解釈がある。私は、次の二つの両方を尊重しています。

1. オリーブ油は、その当時、薬の役を果たしていました→「近寄って傷にオリーブ油…を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった」ルカ10：34。教えられることは、薬だけに頼って神に祈らないのではなく、また逆に、信仰の祈りがあれば、薬も病院も医師も必要ではないという考え方でもなく、神がその時代に与えて下さった適切な医療を用いつつ、しかも人の命を造り、命を支配しておられる神に祈ってもらう事の大切さである。私は祈りつつ薬を飲み、病院に行きます。

2. ある人々は、この御言葉通りに実行されます。病気の時、「教会の長老（教職者や執事）たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらう」。それも尊い事です。「信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯しているなら、その罪は赦されます（「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」（Iヨハ1：9）」：15。

Ⅳ 私たちは、神は全能の力で、奇蹟的に病を癒される事もある。私は、そのような人を知っています。ですから、病の方々の為に、神の癒しがあるように祈りましょう。と同時に、聖書は、すべての病は、祈れば癒されると言っているわけではない事も覚えていなければなりません。全能の神は、癒し主である。神の主権により、神はある病を癒し、ある病を癒されない。そこには、私たち人間にはわからない神の主権がある。他の人の病を癒す事に神によって豊かに用いられたパウロ（使徒19：11, 12）ですが、彼自身のある病は癒されなかった→「私（パウロ）は、高ぶることのないように、肉体に一つのとげ（ある病）を与えられました。…これを私から去らせて（癒して）くださるように、三度も（徹底的に、納得がいくまで、格闘した）主に願いました。しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さ（病や苦しみ）のうちに完全に現れるからである』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱い時にこそ、私は強いからです」Ⅱコリント12：7～10。主は、主の主権により、ある病を癒され、また、ある時は、病の中で、共におられ、主の恵みを十分に与えて下さる方である事を覚えて、主に信頼し拠り頼み、一日一日歩みましょう。私たちの誕生、生涯、病、試練、死（天国への入り口）には、私たち人間には測り知る事ができない神の御支配と神の主権の時がある事を覚えたい。「その道は、何と測り知りがたいことでしょう」ローマ11：33。苦しい時、すべてを支配し、私達のつらさを理解しておられる神に、心を注ぎ出して祈りましょう。神の恵みで喜びに満たされている時、高ぶることなく、神に栄光を帰し、すべては神の恵みのおかげである事を感謝し、心から神を賛美しましょう。